酒々井町
郷土研究会々報
第18号
昭和55.10.18
発行
酒々井町郷土研究会 総務部

秋…九、十月ごろになると　すすきの根元にユニークな美しい姿をあらわす〝ナンバンギセル〟の栽培が、最近野草愛好家の間で流行しています。あなたもナンバンギセルを作りませんか！

皆さん御存知のように、ナンバンギセルは、すすきやミョウガ・陸稲の根元に寄生して養分を得て成育するという「寄生植物」です。

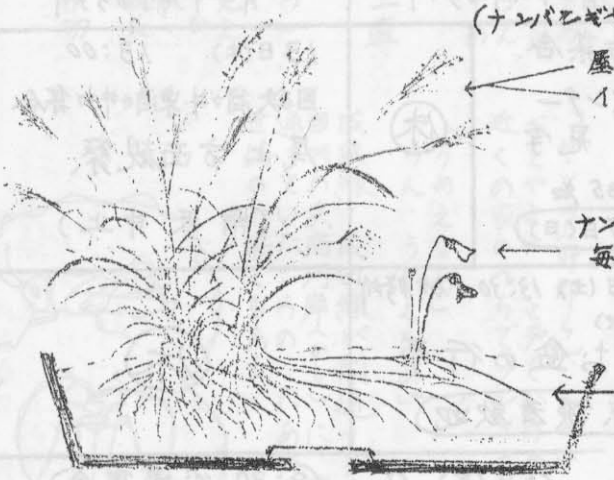
栽培の準備としては、まずすすきを鉢に植えるなり、庭に植えるなどしておきます。

鉢植えの場合は、普通のすすきでもよいのですが、大きくなり過ぎますので、「屋久島ススキ」「イトススキ」が適当とされています。

屋久島ススキ、イトススキは園芸店で求められます。

すすきを植える用土は、赤玉土と腐葉土を少し混ぜたものを用います。

（ナンバンギセルの植え方）



ナンバンギセルは「一年草」なので、十一月ごろ種を採取します。そのためには、日ごろから花の所在を見つけておくことがかんじんです。まだすすきの原が多くある酒々井では花を見つける事もむづかしいことではないと思われますので、山歩きや散歩の折り（にはススキの根元に目を光らせて種のできる頃（花の枯れる十月ごろ）までに心がけて下さい。

播種は翌年の春、庭に植えたり又植木鉢に植えたススキの根元に蒔きます。

詳しいことは、小別当光氏（九六一三九〇五）か役場の町史編さん室（九六一一一七一）相京までお申出下さい。一諸に種の採集などいたしましょう。

尚ナンバンギセルの自生地を御存知の方は、相京まで御知らせ下さい。

ナンバン（南蛮）ギセルとはマドロスパイプのことで、草全体の形がよく似ているところからつけられた名である。茎や葉はごく短く土の中に入っていて突き出しているのは花の柄である。万葉の歌の中にもオモイグサ（思い草）と呼ばれ詠まれている。

秋日和の土曜の午後、古文書学習会の日……この日はあまりの晴天に日ごろの学習意欲満々の人々もついに教室の中にとじこもるのがもったいないと、秋の野に飛び出すことを提案！先生を生徒の意見一致して尾上方面に歩を進める。

老人大学でナンバンギセルの栽培を学んだK氏と共に、昨年見つけた花を捜すことが第一の目的をして、浄水場のわきを通り抜け落花生の畑の道を歩くとまだ秋だというのに春の花が小さく咲き出しているのに驚く。トキワハゼ・スベリヒユ・三階草・ナズナ・ヨモギ・ミミナグサ・そしてスミレまでが……。

山の蔭の奥へ入ると、ヤバナの秋ギリ、タムラソウ、オトコエシ、アキノキリンソウ、ツリガネニンジン……など秋の花を見る。

さらに奥へ進むとトリカブトの群落。深緑の草の中に紫の花花花。普段あまり見かけないオケラも花をつけ、ひっそりと咲いて一株見つけるとその近くのそこかしこに白い花を咲かせている。来春の野草展のために一株持ち帰ることに決定。

目ざすススキの根元にはナンバンギセルは咲いていず、ギンリョウソウが白く隠れるように咲いているのをソッとのぞき見して　この日の収穫とする。

第018号（NO2） 酒々井町郷土研究会々報　昭和55年10月18日(土)

郷土研日誌

7月5日	古文書学習会
8日	大原地方見学会（Cはん） 31名
13日	石仏調査（本佐倉、酒々井地区）
17日	野草の会（風土記の丘、県花植木センター。 33名）
19日	史談会（祭りの行事）12名
8月9日	古文書学習会
23日	史談会（お盆の行事）
9月11日	運営委員会（四半期の行事計画）
18日	京葉地区見学会 Aはん 22名
19日	〃 Bはん 29名
25日	〃 Cはん 25名

55年度の県外史跡見学会は
古都鎌倉へ。

（申込み、その他の事項は行事案内の頁をごらん下さい。）

《見学地ミニガイド》

○ 円覚寺
臨済宗円覚寺派の大本山。鎌倉幕府の名執権、北条時宗が 2回にわたる蒙古襲来で戦死した敵・味方の将兵の霊を慰めるためなどの理由で建立した。 鎌倉五山の第2位にランクされている。

○ 東慶寺
北条時宗の妻、覚山尼が建立した尼寺であった。「駆け込み寺」として知られており、又「花の寺」としても有名である。

○ 建長寺
鎌倉五山の第1位。臨済宗建長寺派の大本山で 北条時頼が後深草天皇の勅命により建立した。 多くの文化財がある。

○ 鎌倉宮
建武の中興で功労のあった護良親王を祭神として、明治2年、明治天皇により建立された。 背後に護良親王が足利尊氏のために幽閉された土牢がある。

○ 妙法寺
日蓮宗で、鎌倉の苔寺として知られている。日蓮上人が小湊から鎌倉に移った時に創建され、身延に移るまでの二十数年間起居された由緒深い寺院である。

○ 杉本寺
天台宗、坂東二十三観音の第1番札所であり、鎌倉最古の寺院である。

新入会員の紹介

（東酒々井五丁目からの入会者が目立ちます。よろしく。）

220 椿　良子
221 西村総子
222 花岡公子
223 白井ゆき
224 青藤ケい
225 金子とめ
226 矢沢武雄
227 相川　洋
228 芥川さと子

会計報告

（町外見学会）
千葉総、行徳方面
9月18・19・25日

収入	1,000円 × 76人	76,000
支出		
弁当	83	36,450
飲物		12,960
見学料	600 × 3	1,800
有料道路		5,100
バス代	8,000 × 3	24,000
		81,310
		(△ 5,310)

（差引不足金 5,310円は郷土研事業費より補助）

（野草の会） 7月17日
風土記の丘、花植木センター

収入	1,000円 × 33人	33,000
支出		
弁当	400 × 38	15,200
飲物		5,920
バス代		8,000
		29,120
		(残 3,880)

（差引残金 3,880円は郷土研会費へ採入れる）

（町外見学会） 6月24・27・7月8日
宮谷県跡、大原方面

収入	1,000円 × 98人	98,000
支出		
昼食	1,000 × 103	103,000
見学料	3,000 × 3	9,000
手土産 本佐倉城址保存会		1,600
有料道路	1,600 × 3	4,800
バス代	8,000 × 3	24,000
		142,400
		(△ 44,400)

（差引不足 44,400円は郷土研事業費より補助。）

上記の通り会計報告をいたします。 見学会は参加者が増えつづけ、A・B・C班と三回にわけて行っています。 ますますの御利用を期待しています。

京増

酒々井町の

石佛を訪ねて

会田秀雄

酒々井町の石佛調査に参加して、上本・本佐倉・酒々井区を終った段階での概要を、報告いたします。

石佛・墓標ともに古いものでは寛文元年（約三百二十年前）あたりのもので、墓標については時代を追ってみますと　板碑型連碑―光背型―板駒型―笠付型―箱型―柱状型―自然石型の順序とみてよいと思われます。

これら墓標は江戸時代もやや落着いた寛文頃より急増されますが、酒々井町ではそれ以前の半世期はほとんど建立されていません

石佛関係では江戸時代前半は舟型形式で、種々の像容の上に　その像に合った梵字（種字）が彫られています

江戸中期以後は、角柱型が多くなり　種字の代りに「帰空」「空」「帰元」「帰真」等の文字に変わるようになります。

今までの調査の中で、特記すべきものの一つとして、酒々井町上本佐倉の光徳院（無住）墓地に、墓標の上部に「八臼鳥（はっきゅうう）」と彫られた　所では珍らしい墓石が見つかりました。

（鳥八臼）

この八臼鳥というのは本来は「鳥八臼（うはっきゅう）」と彫られるのが本当のようで、石工が何かの間違いで「八臼鳥」と彫ったのではないかと思われます。

（光徳院八臼鳥の墓石）

「鳥八臼」の字義については江戸時代よりいろいろの説が提示され

(一) 鳥の意

(二) 鳥を追う鵜（ゲ）（ゲに似た水鳥）の変化したもので、この鳥名を墓標に彫ることによって供物に近づく鳥を払う

(三) 日月の意

(四) 優婆塞、優婆夷の意

(五) 梵字合字の崩れ

(六) 吽（うん）の合字

(七) 大迦葉が成仏の印として弟子に授けた字形

(八) 鳥八臼のキウは「キ」すなわち帰・と八とのキ八に臼の「ウ」を加え・キ九すなわち帰空を現わす。

(九) カン・タンと読みツイバムの意。昔・屍を林中に捨てる鳥に餌（ついば）ませ・空に帰るよう墓碑の頭に用いた。

以上の様に驚くほど多岐にわたっています。それだけに不可解な文字であったろうことが思われます。現在のところ　滅罪成仏の功徳を表わし帰空を意味するものと考えられているようです。この鳥八臼は室町末期より江戸中期にかけて曹洞宗・浄土宗関係の墓地に多いとされています。

石佛調査もいまだ町全体の四分の一程度ですが現在一般に云われている容像墓塔の種類及び数は次の通りです。

大日如来	十四体	
阿弥陀如来	三十一体	
薬師如来	一体	
地蔵菩薩	百四十八体	
如意輪観音	七十二体	
聖観音	四十一体	
多宝如来	一体	
不動明王	一体	
青面金剛（しょうめんこんごう）	一体	
矜羯羅童子（こんがらどうじ）	一体	
制吒迦童子（せいたかどうじ）	一体	
庚申塔	二体	
弘法大師像	八体	
馬頭観音	二体	
愛染明王（あいぜんみょうおう）	一体	
宝生如来	二体	

以上となっています。

断元禄・享保が石佛の最盛期で、順次数も減っていくのが今までの調査結果であります。

（会報十四号「墓塔について」も併せて御覧下さい）

第018号（N04）酒々井町郷土研究会々報　昭和55年10月18日（土）

郷土研行事計画

申込みは 96－1171（教育委員会 or へんさん室）へ

	10月	11月	12月
石佛神社調査	12日（日） AM 9:00 役場集合（雨天中止）	9日（日） AM 9:00 中央公民館集合（雨天中止）	14日（日） AM 9:00 中央公民館集合（雨天中止）
古文書学習会	4日（土） PM 1:30 青年研修所	8日（土） PM 1:30 中央公民館	6日（土） PM 1:30 中央公民館
史談会	28日（火） PM 1:30 青年研修所（テーマ 祭りの行事）	29日（土） PM 1:30 中央公民館（テーマ 祭りの行事）	休み
野草の会	6日（月） AM 8:30出発 "泉自然公園（千葉市）と雄蛇ヶ池（東金市）" 会費 ¥1,000.- 定着 35名 申込 96－1171 （雨天中止）	12日（水） PM 1:00 "佐倉市の史跡を歩く" （京成酒々井駅集合） 甚大寺（堀田家墓地） 延覚寺（鈴木清助碑） 松林寺（土井利勝菩提寺） 千成団地 ～ 京成佐倉	休み
県外史跡見学会 鎌倉（かまくら）	11月16日（日） 申込 96－1171	光ドライブイン AM 6:50 出発 役場 AM 7:00 会費 ¥3,500 定着 50名 （雨天決行）	
	（コース）円覚寺 ～ 東慶寺 ～ 建長寺 ～ 鎌倉宮 ～ 妙法寺 ～ 杉本寺		
サイクリング（さいくりんぐ）	11月24日（日） AM 8:30 中川西蔵院集合 （公津方面） （コース）中川 ～ 柏木 ～ 宗吾 ～ 台方麻賀多神社 ～ 宗吾旧宅 ～ 船形印旛国造墓 ～ 吾妻神社 ～ 六角堂 ～ 成田ニュータウン ～ 大鷲神社（解散）		
房州史跡めぐり（1泊2日）	12月11日～12日 房州史跡めぐり（旅館バス利用） 役場9:00出発，会費 ¥10,000，申込 96－1171 （コース）源頼朝上陸地 ～ 舟形観音 ～ 那古観音 ～ 石堂寺 ～ 小湊泊 清澄寺 ～ 誕生寺 ～ 鯛の浦 ～ 清水観音 （宿泊）小湊 万能 TEL 04709（5）2334		

後記

六月三十日に十七号を書いてすっかり会報の書き方を忘れてしまい以来、三か月半の空白です。今回十八号をお届けするのに四苦八苦。新会員の方も増えるにしたがい会報の内容もより豊かに、より楽しいものにしたいと心がけてはいるものの……いざ書きはじめてみるといつもの通り遅筆なし。これからは二百余名の会員の急が紙面あふれるものにしたいと思いますので、何卒皆さまの生の声をどしどしお寄せ下さい。

石佛調査に参加者が少ないのだが残念です。道を歩けばまだまだ野の佛を見つけるのも容易な酒々井の町。親から子へ孫へと信仰し、花をあげ供物をさげてきた人々と、何十何百年の昔からそこに在る佛との無言の心のかよい……そんな思いを石佛研究に長い時間をかけて来られた会田氏と一緒に説明を聞く事が出来るのも酒々井町郷土研の最大の利点ではないでしょうか。

中央公民館が開館します。佐倉ではありません。酒々井町のデスゾ！十一月よりは集合場所が今までの青年研修所から中央公民館に変わりますので、まちがいのない様にお願いします。

見学会が「鎌倉」「房州一泊」と決まり、申込みを心待ちにされている方も多い事と思います。人数にかぎりがありますので希望者はお早くお申込を。

（M）